

諸価値のコンフリクトと妥協に関する民族誌的研究

2008年度GCOE研究プロジェクト中川班

研究プロジェクトメンバー

代表者・事業推進担当者	中川 敏	人間科学研究科・教授
連携研究者	中川 理	グローバルコラボレーションセンター・特任講師
	思沁夫	グローバルコラボレーションセンター・特任助教
	山崎 吾郎	日本学術振興会特別研究員(PD)(コミュニケーションデザイン・センター)
	森田 敦郎	大阪大学・人間科学研究科・講師
研究協力者	深田 淳太郎	日本学術振興会・特別研究員(PD)(大阪大学人間科学研究科)
	森田 良成	人間科学研究科博士後期課程
	寺田 晋	人間科学研究科博士後期課程

研究プロジェクトの目的

- 背景＝急激な変化による領域間の接触や混交による、境界領域でのさまざまな価値のコンフリクトの発生(とくに、「経済化」による軌轍)
- 本研究プロジェクトの目的は、経済的価値とその他の価値(市民的、家族的、環境的、等々)との衝突と妥協がどのように生起するかを明らかにすること。
- 理論的かつ民族誌的に
 - 理論的＝とくにコンヴェンション・スクールを出発点として
 - 民族誌的＝環境問題、臓器移植、相互扶助運動などについての経験的研究にもとづいて

補注:コンヴェンション・スクール(CS)とは

- 1980年代後半からフランスの社会学者・経済学者を中心に起こった学派(Thévenot, Boltanski, Orléan, etc.)
- 価格によって調整される市場だけでなく、多元的な価値領域がそれぞれのconventionによって成立していると考え(＝人類学的な「経済」のとらえ方)
- 経済活動は、不確実性を縮減してcoordinationを可能にするさまざまなconventionsによって成り立っていると考え、conventionsの生成を明らかにしようとする。
- 価値領域間に起こるコンフリクトとその結果としてのconventionsの再編をとらえようとする。

2007年度の成果と2008年度の方針

- 2007年度＝研究会(CSIに関する最重要文献の検討、連携研究者のワーキングペーパーについての討論)、シンポジウムによる**理論的検討**
 - その成果の一部は『文化人類学』43巻4号(2009年4月)の小特集「アカウンタビリティ」所収の森田(敦)、深田、中川(理)の論文として発表
- 2008年度＝理論的枠組みから出発して、より**民族誌的研究**にもとづく検討へ

2008年度実績

- (a) 在外研究
- (b) 研究会
- (c) セミナー・ワークショップ等の開催

(a) 在外研究

- メンバーのうち、山崎吾郎と寺田晋が在外研究を実施

山崎吾郎：「人間」を規定するモラルとマテリアル

期間：2008年10月－2009年8月（予定）

場所：フランス国立社会科学高等研究院（École des hautes études en sciences sociales）

研究内容：

- ・人体の医学的利用（主に臓器移植）にともなうコンフリクト、およびそれを調停する制度・実践の歴史。脳死に関する論争、法律の制定、「臓器不足」に対する政策的対応などから、新たな価値領域の生成とその社会的条件を考察する。
- ・生物医学庁（l'Agence de la biomédecine）、ジョルジュ・ポンピドゥー病院（l'Hôpital Européen Georges Pompidou）を中心としたフランスの取り組み（日本との比較）。



▲ ジョルジュ・ポンピドゥー病院（パリ）で行われた、臓器移植を考える公開市民講座の様子

寺田晋：世界公共圏の形成史



- 2008年11月から2009年1月までの三ヶ月間、ハイデルベルク大学カール・ヤスバース・センターに短期奨学生として滞在
- 研究テーマ：世界公共圏の形成史。多元的な価値が存在する世界社会において国際機関に制度化された公開性が国際的なコンフリクトに与える影響について。
- 活動内容：研究発表、ポスターセッションへの参加、資料収集、国際法学者へのインタビュー、欧州議会見学など

(b) 研究会

- 大阪大学にて計6回
- 重要文献の購読
 - W. N. Espesland 1998 *The Struggle for Water*
 - Ch. Zerner (ed.) 2003 *Culture and the Question of Rights*
- 経済主義だけでなく、**環境主義、人権主義**といった普遍化しようとする価値とローカルな価値のあいだのコンフリクトの主題化
 - この主題でワークショップの開催へ

(c) セミナー・ワークショップ等

- (1) 『シンポジウム：生存を支える「地域／社会」の再編成』（2009年1月23日～25日、京都大学グローバルCOEプログラム「生存基盤持続型の発展を目指す地域研究拠点」との共催）
- (2) セミナー「雅禮（Yale）大学病院（湖南省長沙）における看護士ストライキ事件（1926年）にみるジェンダー・職業観のコンフリクトと反帝運動」（2009年1月29日、佐々木一恵（現法政大学））
- (3) ワークショップ『**グローバルな価値とローカルな実践—紛争・調停・共存の民族誌—**』（2009年3月10日）

「諸価値のコンフリクトと妥協に関する民族誌的研究」プロジェクト・ワークショップ
グローバルな価値とローカルな実践—紛争・調停・共存の民族誌—

日時：2009年3月10日（火） 15:00 から 18:40
会場：大阪大学大学院人間科学研究科（吹田キャンパス）
東館2階 ユメンスホール（参加無料）

<プログラム>

- 15:00-15:05 趣意説明 佐々木一恵（日本女子大学非常勤講師）
- 15:05-15:45 発表1：松川恭子（奈良大学社会学部専任講師）
「ネオ・リベラリズム時代の現地語市場—インド・ゴア州を事例として」
- 15:45-16:05 コメント・質疑応答 コメンテーター：中川隆（大阪大学 GLOCOL 特任講師）
- 16:05-16:45 発表2：福武慎太郎（名古屋市立大学人文学部准教授）
「紛争と和解の民族誌にむけて—ティモール南テトウン社会の事例を中心に」
- 16:45-17:05 コメント・質疑応答 コメンテーター：石田慎一郎（大阪大学大学院人間科学研究科 GCOE 特任助教）
- 17:05-17:10 休憩
- 17:10-17:50 発表3：佐野八重（立命館アジア太平洋大学アジア太平洋学部助教）
「共有資源としてのフィジーの沿岸資源」
- 17:50-18:10 コメント・質疑応答 コメンテーター：思川亮（大阪大学 GLOCOL 特任助教）
- 18:10-18:20 総合コメント：中川隆（大阪大学大学院人間科学研究科教授）
- 18:20-18:40 全体討論

環境主義とローカルな価値

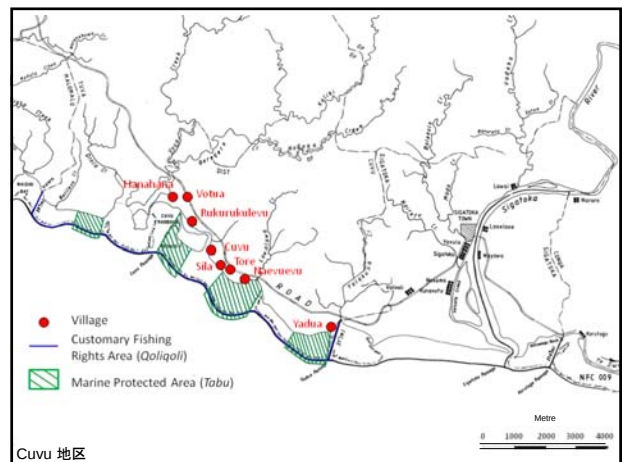
佐野八重（立命館アジア太平洋大学）「共有資源としてのフィジーの沿岸資源」

district(tikina)による伝統的漁業権区域内(qoliqoli)の共同利用権

1999年より、国際NGO・南太平洋大学の知識・技術サポートと海外からの資金援助による新たな沿岸資源管理＝外部者が介在したローカルcommonsのルールづくり

伝統的漁業権区域内に保護区(Marine Protected Area/tabu)を設置

伝統的漁業権と環境主義にもとづいた資源管理体制の軌跡



人権主義とローカルな価値

- 福武慎太郎（名古屋市立大学）「紛争と和解の民族誌にむけて—ティモール南テトウン社会の事例を中心に」
- 1999年 東ティモール独立に向けた住民投票後に破壊と虐殺が発生→国連機関や人権NGOが関与した裁判と和解のプロセス
- スアイ教会事件**：反独立派武装組織ラクサウルが教会に避難していた住民約150名を殺害。教会に避難していた少女のひとりラクサウルの副司令官イジディオ・マヌクによって誘拐される

国連オフィサーや人権活動家の認識

「スアイ教会の大虐殺の生存者が、民兵組織のリーダー、イジディオ・マヌクによってレイプされ、戦利品として誘拐された」
＝騒乱時の性暴力という人権犯罪

和解をめぐる認識の断絶

家族と共同体の認識

当初は事件の暴力性を訴えるも、少女が帰還を拒否しイジディオ・マヌクが婚資（四輪駆動の新車）の支払いを約束すると結婚として承認
＝「略奪婚」の文脈で理解



騒乱の傷跡（2004年8月撮影）



結婚式に集まったスアイロ村のリア・ナイン(長老)たち

英語と現地語

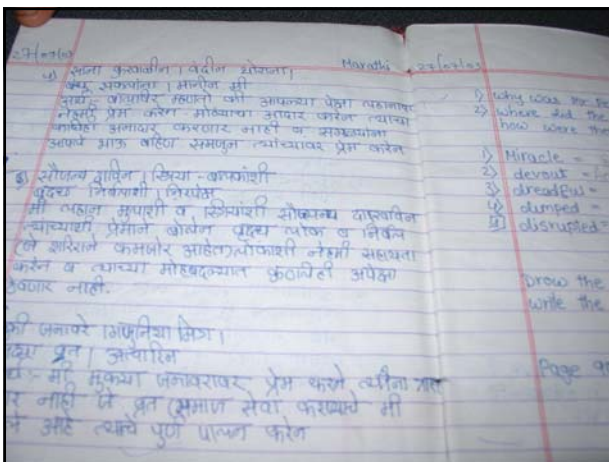
- 松川恭子(奈良大学)「ネオリベリズム時代の現地語市場：インド・ゴア州を事例として」
- グローバルな言説の担い手としての英語が「市場」を支配する現在において、インドの現地語はどうなるのか？

ポルトガル植民地支配(~1961)からマハーラシュトラ州への編入への反対(1965)
ポルトガル語およびマハーラシュトラ州の公用語マラーティー語とは異なるゴアの独自言語としてのコンカニー語への意識の高まり

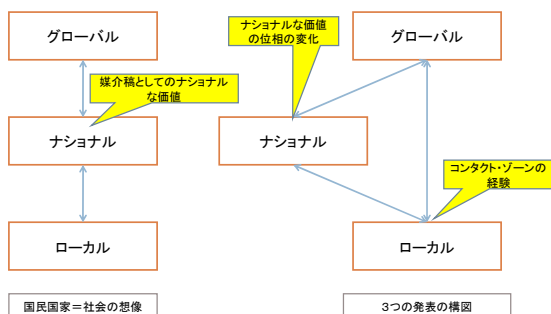
コンカニー語公用語化運動(1985~1987)、デーヴァナーガリー文字筆記のコンカニー語が州公用語と定められ、インド25番目の州としてゴア州が誕生(1987)

植民地体制、インド連邦国家体制内での「われわれの言語」をめぐるコンフリクト

しかし、global languageとしての英語が市場を支配するなかで、小規模な現地語としてのコンカニー語・文学は「売れなく」なる



全体の構図



2009年度計画

- 昨年度のワークショップ参加者を加えた研究会で本年度に出てきた問題を議論
- 理論的枠組みと民族誌的研究の統合を試みる
- (他資金との組み合わせにより)在外研究、調査を実施
- 研究会の成果を踏まえシンポジウムを実施。発表原稿を雑誌『コンフリクトの人文科学』の増刊として発表したい。